

私の知り合いにK先生がいる。K先生と出会ったのは、ある研修でK先生が研修者、私が助言者という立場だった。その当時、K先生は教職11年目、私は一教諭のときだった。その研修では、自分の経験をもとに、いろいろなアドバイスをした。すると、K先生が私に言った。「今度、高澤先生の授業を見に行ってもいいでしょうか」

私は今まで立場上、あるいは人とのつながりからたくさんの人にアドバイスをしてきているが、一教諭時代に「授業を参観させてください」と言われたのはK先生だけである。私は多少驚いたが、すぐに「いいですよ。校長先生の了解をもらってください」と答えた。

後日、K先生は校長先生の了解を得て、知り合いの先生と3人で私の学校にやってきた。K先生もすばらしいが、快く送り出してくれた校長先生のご理解にも感謝である。参観してもらった国語の授業は、その頃私が実践し、研修の中でも話をした「一枚ポートフォリオ」を使った授業であった。授業後には、4人でいろいろな話をした。私にとっても有意義な時間となった。せっかく遠くから来ていただいたのである。お土産を用意しておいた。お土産は、学級通信「薫風」、国語教室通信「窓」、国語の実践資料などである。

私は、教職に就いて10年目、年齢だと30代半ばくらいが、教員人生にとって一つのターニングポイントだと思っている。この時期に、どんな出会いがあり、どのような実践を積み上げるかによって、その後が変わってくる。非常に重要な“とき”である。

K先生には「行動力」がある。私もいろいろな方からアドバイスをいただき、「この先生の授業を見てみたい」と思ったことは何度もある。しかし、K先生のように行動できなかった。きっと多くの先生方がそうなのではないかと思う。それでも私の場合は、実践資料を見て「もっと詳しく知りたい」と思い、直接その方に電話をしたことが何度かある。そして、資料を送っていただいたこともある。すばらしい実践をしている方というのは熱心かつ親切である。

その後、K先生は勤務校はもとより地区あるいは県レベルでもご活躍である。数年前に、K先生が公開授業を行ったことがあった。私も参観させていただいた。2年前には、今度は道德の授業を公開した。そのときも参観させていただいた。

これも縁である。このような機会が続き、K先生に様々な資料をプレゼントすることもあった。K先生がすごいのは、私が贈った倍以上の良質な資料を私にくださるのである。「これは〇〇先生の資料」「これは〇〇を録画したもの」といった具合に。とにかく豊富な情報量である。これもK先生の行動力の為せるものである。これらの多くが、K先生の授業や指導を支えるものとなっていることは想像に難くない。

思い返してみると、K先生との最初の出会いは、たったの数時間である。出会いというのは、時間の長さではない。タイミングや密度の問題である。

私は昨年の4月に梁川高校に赴任した。すると、K先生が知り合いのT先生と梁川高校に来てくれた。私とT先生も知り合いである。用件は、T先生が最近の国語教育界のことを知りたいということで、K先生がT先生のことを私のところに連れてきたということであった。このとき、T先生は勤務している学校で国語の話をして、どうもかみ合わないという悩みを抱えていた。

T先生もエネルギーのある方である。国語の話をしていてかみ合わないということはよくある話である。しかし、多くの先生方は、疑問に思うことがあってもそのままにしてしまっているのではなかろうか。T先生はあやふやにしておけなかったのだろう。これでいいと思う。わからないことは解決して前に進まなければならない。児童や生徒の前に立つ者として当然のことである。教員の姿勢は必ず児童や生徒に影響を与える。